

優秀賞

『かくて行動経済学は生まれり』 マイケル・ルイス著 渡会圭子訳

政治経済学部 政治学科 1年 石川 芳季

まずは次の問題を 10 秒で考えてほしい。

バットとボールの合計金額は 110 円である。このとき、バットの値段がボールの値段より 100 円高いならば、ボールの値段はいくらであるか。

もちろん答えは 5 円である。しかし、中には 10 円が答えであると思った人もいるのではないだろうか。もしそのように思ったとしても、がっかりしないでほしい。なぜなら、私も最初は答えが 10 円であると思ったからである。

この本では、人間が上記のような問題に対し、無意識に間違った選択をしてしまうことを、実験などを通して分かりやすく説明している。しかし、この本は心理学の教科書ではない。この本はある 2 人の心理学者について書かれた本である。その心理学者は、ダニエル・カーネマンとエイモス・トヴェルスキーである。

彼らはユダヤ人である。第二次世界大戦中にはナチスに追われ、国外に逃げた。第二次世界大戦が終わりイスラエルに戻ると、周辺のアラブ諸国との戦争が勃発した。このように波瀾の人生を過ごす中で人間の不合理な部分を見つける。それが後に彼らの研究に繋がっていった。

しかし、多くの分野において人間は合理的に物事を考えて行動しているとみなされてきた。そして、それは特に経済学で顕著であった。なぜなら、合理的な行動のほうが、経済モデルを構築するうえで、都合が良かったからである。経済学において、合理的でない行動は「エラー」とみなされ、排除されてきた。けれども、彼らはそのことに異を唱えてきた。そして、彼らが発表した理論は、経済学を根底から揺るがすものとなった。後に、それが「行動経済学」に繋がっていった。

また、彼らの功績の一つは、心理学を他の分野に広めたことである。現在、彼らの理論は経済だけでなく、医療や行政、法律などの様々な分野で取り入れられている。

今の世の中にとっても大きな影響を与えていて、特に、カーネマンはノーベル経済学賞を受賞しているのにもかかわらず、私は彼らのことを知らなかった。だからこそ、この本に出会えたことは幸運であった。この本によって、世界を変えた理論の誕生には、どのような過程があったのかを知ることができた。

また、この本ではカーネマンとトヴェルスキーのどちらかに偏るのではなく、2 人を対等の主人公として描いている。それによって、彼らと彼らに関わる人たちが生き生きと描き出されていて、読み手は彼らの行動をより鮮明にイメージすることができる。

行動経済学に興味がある人や偉人伝が読みたい人はもちろん、誰に対してもこの本をお勧めしたい。